



6月25日の定期総会にご参加を！！

講演—講師に東洋刃物・大石純一郎社長—

富谷市日中友好協会「第28回定期総会」が下記の内容で開催されます。本年は“日中平和友好条約締結45周年”の意義を込めて記念講演も行います。会員の他、講演に興味のある友人の参加をお待ちしております。

＜日時＞ 6月25日(日)午後2時～3時半を予定
 ＜会場＞ 町上会館(阿部八商店グリーンガスサービス隣り)
 ＜第1部＞

○講演：「杭州東洋刃物とフェローテック中国の事業展開を通しての友好の深化について」(約30分)

講師：東洋刃物刃物・大石純一郎社長(杭州東洋精密刀
 具・董事長) 写真⑥は「河北新報」から



＜第2部＞

○議案審議 ○お茶会(会費300円)

※会費納入のお願い※

当日は受付で年会費の納入を受け付けます(後日の振込でも結構です)。会費は一家族3000円。但し中国語講座の会員は2000円。

なお『日本と中国』(全国協会機関紙)購読希望会員＝全国・県協会に加入＝は別途6000円の納入となります。ご協力、よろしくお願いいたします。

卯年の一言
 「兔も七日なぶればかみつく」—ウサギのようなおとなしい生き物であっても、長い間いじめたり、また恥をかかせたりすすれば、歯をむき出し怒り出すこと。

『深掘り三国志』(塚本青史著 潮新書 1045円)



「三国志演義」は小説であり「三国志」は歴史書である。本書の前半は“五丈原”まで、後半が魏・呉・蜀の終焉を深掘りしていく。「孔明の正しい呼び名は」等36のコラムや図解も面白い。

個人的には「三国志と後漢書での邪馬台国の表記の違い」や「卑弥呼の使いに協力した理由」等々、小分けしたテーマは中国歴史上の人物を題材にする作家らしい。著者は「三国志」の後半部分が広く研究されていたら、邪馬台国論争にも新たな光があったのでは、と残念がる。(M)

『夏の漢詩』

「山泉煎茶有懷」白居易

坐酌泠泠水 看煎瑟瑟(しつしつ)塵
 無由持一碗 寄與愛茶人

【通解】山の泉の水で茶を煎じ、感ずることがあり地に座り、さらさらと流れているイズミの水を汲んで賞味し、黄緑色の粉末を煎じる釜を見守る。なぜか一杯の茶を用意し、茶を愛する友人のために置く。



富谷茶摘み取り式(5月17日)で

※白居易(白樂天)は唐代中期。玄宗皇帝と楊貴妃の愛を詠った代表作「長恨歌」でも知られる。杭州刺史の官僚時代には杭州・西湖の堤防を造っている。

§『スラムダンク』中国での人気§

中国で大変な人気でとなっている「スラムダンク」劇場版。北京大学でのプレミア上映会が行われたニュースが話題になった。20年前アニメ放映時の台湾の声優まで招かれ、コスチュームや手作りグッズ等、一大イベントの様子。



また公開の4月20日までの前売り興行収入は8000万元(15億5千万)を超える大加熱という。また多くの中国人が“聖地巡礼”で、鎌倉・江ノ電の踏切や海岸等を訪問している。更に『すずめの戸締り』も大人気だという。世代を超えて文化の役割は大きい、と実感する。